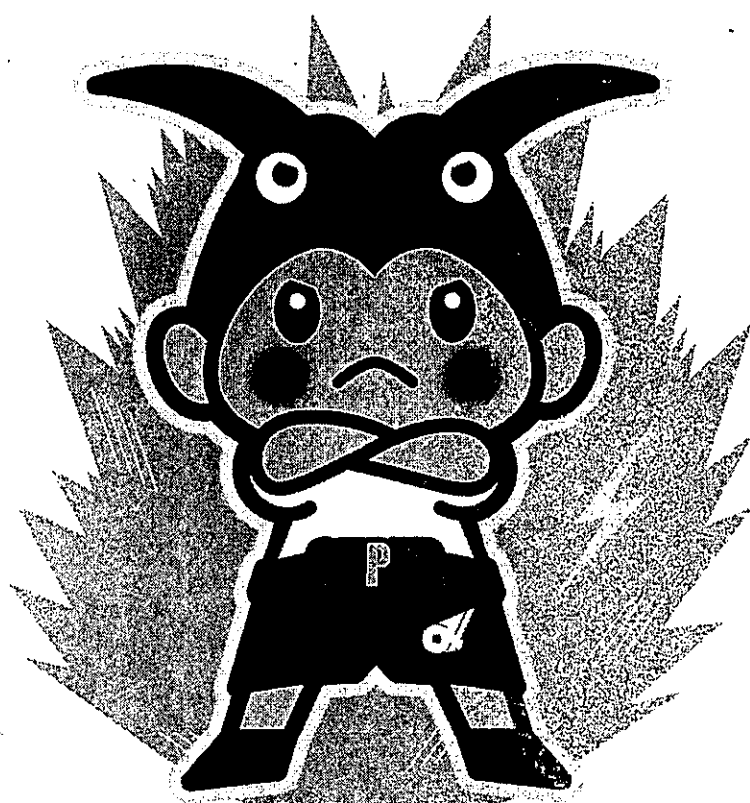


三重県競技力向上対策本部

第19回競技力向上対策委員会



令和5年3月20日（月）

プラザ洞津 飛翔の間

三重県競技力向上対策本部
第19回競技力向上対策委員会 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第19回競技力向上対策委員会 会議次第	P 3
○ 説明・報告事項【公開】	
(1) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過	P 7
(2) 令和4年度競技力向上対策事業に係る実績報告及び成果	P 11
(3) 特別国民体育大会冬季大会実施競技報告 (スキー、スケート、アイスホッケー)	P 13
(4) 第18回競技力向上対策委員会の概要について	P 15
○ 協議事項【非公開】	
・令和5年度の競技力向上に係る取組等について (案)	P 21
○ 審議事項【非公開】	
・令和5年度競技力向上対策事業について (案)	P 29
○ 参考資料	
・三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画	P 69
・三重県競技力向上対策本部の継続と今後の競技力向上に係る取組方針	P 70
・みえ元気プラン (抜粋)	P 71
・第3次三重県スポーツ推進計画 (仮称) (抜粋)	P 74
・三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿	P 84
・三重県競技力向上対策委員会規程	P 85

三重県競技力向上対策本部
第19回競技力向上対策委員会 会議次第

令和5年3月20日（月）

プラザ洞津 飛翔の間

1 開 会

2 挨拶

3 説明・報告事項

- (1) 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過
- (2) 令和4年度競技力向上対策事業に係る実績報告及び成果
- (3) 特別国民体育大会冬季大会実施競技（スキー、スケート、アイスホッケー）報告
- (4) 第18回競技力向上対策委員会の概要について

4 協議事項

- ・令和5年度の競技力向上に係る取組等について（案）

5 審議事項

- ・令和5年度競技力向上対策事業について（案）

6 閉 会

説明・報告事項

三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第7回本部会議」を開催しました。
令和元年 10月28日	三重県競技力向上対策本部「第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第7回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月 1日	三重県競技力向上対策本部「第7回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月21日	三重県競技力向上対策本部「第13回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和2年 2月20日	三重県競技力向上対策本部「第14回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月 1日	三重県競技力向上対策本部「第8回本部会議」を開催しました。
令和3年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第15回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月 1日	三重県競技力向上対策本部「第9回本部会議」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第16回競技力向上対策委員会」を開催しました。

令和4年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第17回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月20日	三重県競技力向上対策本部「第10回本部会議」を開催しました。
11月15日	三重県競技力向上対策本部「第18回競技力向上対策委員会」を開催しました。

令和4年度競技力向上対策事業に係る実績報告及び成果

事業名	対象	取組内容	報告及び成果
① チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手	全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手(小学生・中学生)を「チームみえジュニア」として指定し、その育成・強化を目指した活動を支援するとともに、スポーツ体験会による新たなジュニア選手の発掘を支援することで長期的で持続可能な競技力の向上を図る。	今後の国体で活躍が期待できるジュニア選手の活動を支援した。ジュニア選手が少ない18競技において、スポーツ体験会の案内を県内全小・中学校に配布し、選手発掘を行った。
② ジュニアクラブ・運動部強化指定事業		今後の国民体育大会等において、少年種別の中心となる選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援し、競技力の向上を図る。	13のジュニアクラブ・運動部を強化指定した。全国レベルの大会におけるジュニア選手(小・中学生)の入賞は59件であった。さらに、日本代表として活躍している選手を輩出している。
③ 高等学校運動部強化指定事業		国民体育大会等の全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図る。	32校56部を強化指定した。全国高等学校総合体育大会における入賞は61件、栃木国体における少年種別の入賞は33件あった。
④ チームみえスーパージュニア強化指定事業		全国・国際スポーツ大会等で活躍する中・高校生選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できるジュニア選手の育成・強化を図る。	24名の中学生・高校生を強化指定した。全国高等学校総合体育大会や全国中学校総合体育大会等の全国レベルの大会における指定選手の入賞は34件あった。
⑤ 三重県アスリートタレント発掘・育成事業(MIEスーパー☆プロジェクト)		優れた資質を有する小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップなどの国際大会において活躍することができるアスリートの輩出をめざす。また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図る。これまでの女子選手に加えて、7期生からは男子選手の発掘・育成に取り組む。	これまでの女子選手に加えて新たに男性選手を発掘した。11月6日(日)にオーディションを実施し、1月29日(日)に8名の第7期生を認定した。5～7期生の合計19名を発掘・育成している。
⑥ トップアスリート応援事業		国民体育大会をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支える。	今年度新たに9名を新たに認定し、今年度の認定数は19名(令和2年度7名、令和3年度3名)となった。全国高等学校総合体育大会等の全国レベルの大会における認定選手の入賞は10件あった。
⑦ チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通	栃木国体において10位以内を獲得するため、活躍が期待できる本県代表選手(チームみえ)に対し、重点的な強化に取り組む。	令和4年の栃木国体に向けて、各競技団体に対するヒアリングに基づき精査した強化費の配分を行うとともに、東海ブロック大会を突破した競技種別については、必要に応じて強化費の追加配分を行った。結果、天皇杯12位となり(10位の京都府とはわずか7点差)、令和元年の茨城国体の順位(14位)を上回った(過去3番目)。また、鹿児島国体に向けたヒアリングを行い戦力分析や強化計画の聴き取りを行った。
⑧ 女性アスリートサポート事業		女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について、女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図る。	研修会を2回実施し、女性アスリート特有の諸課題についてサポートを行った。
⑨ パラリンピック等選手強化指定事業		パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍を目指して強化活動に取り組んでいる本県の選手を指定し、その活動を支援することで、更なる競技力の向上を図る。	14名を強化指定した。対策本部が指標とした国際大会及び全国大会における指定選手の入賞は44件(内、国内大会33件)であった(世界新記録1件、アジア新記録1件、日本新記録1件を含む)。

事業名	対象	取組内容	報告及び成果
⑩ 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	国民体育大会や全日本選手権及び日本リーグ等で、三重県を代表するチームとして活躍が期待できるチームを指定し、成年選手の重点的な競技力向上を図る。	19のチームを強化指定した。栃木国体における入賞は8チーム11件(1件の優勝を含む)であった。
⑪ オリンピック等選手強化指定事業		全国・国際スポーツ大会等で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、オリンピック及び国民体育大会に向けた成年選手の競技力向上を推進する。	11名を強化指定した。世界選手権での入賞は1件(卓球競技)、アジア選手権での優勝は2件(レスリング競技、水球競技)、日本選手権での優勝は3件(陸上競技、レスリング競技、卓球競技)であった。
⑫ トップアスリート就職支援事業		全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者に対し、県内企業等への就職支援を行い、社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備することで、国民体育大会を初めとする全国大会等で安定した競技力を確保する。	国体が開催されずに終わったものの、引き続き競技力向上には取り組むことや、トップアスリート雇用への理解を求めながら会社訪問を重ねた。令和5年4月1日採用予定のトップアスリートは10名となった。
⑬ ふるさとタレントアスリート強化指定事業		国民体育大会で活躍が期待できるふるさと選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、競技力向上を推進する。	32名を強化指定した。栃木国体(ブロック大会含)には指定選手32名中24名が参加し、指定選手の入賞は13件であった。(陸上、水泳、ボート、体操、レスリング、ウェイトリフティング、フェンシング、ラグビーフットボール、空手道の9競技)
⑭ スポーツ指導員配置事業	指導者	全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣することで、本県選手の競技力向上を図るとともに、トップアスリート等として国民体育大会の成年種別の競技得点を獲得をめざす。	33名を配置している。栃木国体で18名が入賞し、116.5点(団体競技を含む)を獲得した。男女総合成績12位の獲得に大きく貢献した。
⑮ チームみえ・コーチアカデミーセンター事業		三重とこわか国体後の安定的な競技力を確保するために、優れたコーチデベロッパーと各年齢カテゴリーにおけるトップ指導者の養成を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図る。また、各カテゴリーを超えた指導者が幅広く交流し、チームみえとしての一体感を醸成するとともに、一貫的な指導体系を構築し、指導力と資質の向上を図る。	「みえコーチアカデミー」については、今年度より、これまでの1・2期生の中から27名をコーチデベロッパーとして養成するとともに、新たに3期生として成年からジュニアまでの指導者を対象とした21名を迎えて実施した。4月に3期生のプレミーティング、6月と12月には合同の研修を実施した。「みえマルチサポートシステム」については、サポートスタッフを派遣し、効果的な指導体制を整備して、指導者の資質向上を図るとともに、競技力の向上を進めた。「みえコーチングコミュニティ」については、毎月News Letterを発行するとともに、グループLINEを活用した相互の情報交換や最新の情報共有を進め、意識向上を図った。コーチデベロッパー27名のうち栃木国体での入賞は11件あった。
⑯ 競技用具等整備事業	環境整備	国民体育大会や全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を、整備する。	ボート競技、セーリング競技、自転車競技、ライフル射撃競技、カヌー競技、アイスホッケー競技における備品と馬術競技における競技馬を各競技団体に無償貸与した。この7競技における栃木国体での入賞は33件あった。
⑰ 競技団体・チームサポート事業		運営や経営に関する課題を抱える競技団体やチームに対し、専門的な知識やノウハウを持った人材をアドバイザーとして派遣し、組織力や経営力を高めることで、持続的な運営や経営ができる体制強化を図る。	対象の競技団体・チームが各々アドバイザーを派遣し、運営や経営に関する課題へのサポートを行った。
⑱ みえのアスリート応援・発信事業	広報啓発	本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成する。	8月と1月に広報誌「アスリートNEWS」を発行し、8月発行分は今年度の強化指定チームや栃木国体注目選手、パラアスリートに関する広報を進め、1月発行分は栃木国体の結果とパラアスリートに関する広報を進めた。また、栃木国体に出場する選手が着用するポロシャツを作成し、チームみえとしての士気を高めた。

※入賞件数等の数値は令和5年2月20日現在

特別国民体育大会 三重県選手団入賞一覧

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属 《ふるさと登録》	得点
1	スケードト (スピード)	成年男子	500m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	8点
3	スケードト (スピード)	成年男子	1000m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	6点
	スキークロスカントリー (クロスカントリー)	成年女子 B	5kmクラシカル	渡邊 祐佳	(公財)三重県スポーツ協会	6点
4	スキークロスカントリー (ジャイアントスラローム)	成年女子 B	ジャイアントスラローム	中澤 真緒	(公財)三重県スポーツ協会	5点
5	スケードト (スピード)	成年男子	500m	森本 拓也	(公財)三重県スポーツ協会	4点
	スケードト (スピード)	成年女子	3000m	富田 裕香	(公財)三重県スポーツ協会	4点
7	スケードト (スピード)	成年女子	1500m	富田 裕香	(公財)三重県スポーツ協会	2点

特別国民体育大会冬季大会

男女総合成績(天皇杯)順位 22位

競技得点 35点

得点合計(参加点含む) 65点

女子総合成績(皇后杯)順位 19位

競技得点 17点

得点合計(参加点含む) 37点

特別国民体育大会冬季大会都道府県総合成績一覧（参考）

令和5年2月20日（月）時点

No.	都道府県名	男女総合成績（天皇杯）				女子総合成績（皇后杯）				
		得点合計	順位	スケート	アイスホッケー	スキー	得点合計	順位	スケート	スキー
1	北海道	461.50	1	193.00	90.00	178.50	155.00	2	96.00	59.00
2	青森県	177.00	3	83.00	65.00	29.00	66.00	9	54.00	12.00
3	岩手県	128.00	11	70.00	10.00	48.00	72.00	4	57.00	15.00
4	宮城県	69.00	21	34.00	25.00	10.00	41.00	15	31.00	10.00
5	秋田県	157.00	9	10.00	10.00	137.00	68.00	6	10.00	58.00
6	山形県	143.00	10	75.00	10.00	58.00	67.00	8	48.00	19.00
7	福島県	41.50	27	15.00	10.00	16.50	27.50	25	15.00	12.50
8	茨城県	40.00	28	12.00	10.00	18.00	28.00	23	10.00	18.00
9	栃木県	88.00	17	32.00	35.00	21.00	36.00	20	15.00	21.00
10	群馬県	174.00	5	114.00	10.00	50.00	72.00	4	50.00	22.00
11	埼玉県	170.00	6	89.00	65.00	16.00	46.00	13	36.00	10.00
12	千葉県	54.00	24	19.00	25.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
13	東京都	176.00	4	94.00	65.00	17.00	66.00	9	52.00	14.00
14	神奈川県	108.00	12	86.00	10.00	12.00	68.00	6	58.00	10.00
15	山梨県	84.00	18	64.00	10.00	10.00	38.00	16	28.00	10.00
16	新潟県	106.00	13	10.00	10.00	86.00	38.00	16	10.00	28.00
17	長野県	361.00	2	162.00	40.00	159.00	165.50	1	101.00	64.50
18	富山県	90.00	16	31.00	10.00	49.00	48.00	12	30.00	18.00
19	石川県	42.00	26	10.00	10.00	22.00	14.00	38	0.00	14.00
20	福井県	40.00	28	10.00	10.00	20.00	10.00	39	0.00	10.00
21	静岡県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
22	愛知県	168.00	7	128.00	30.00	10.00	56.00	11	46.00	10.00
23	三重県	65.00	22	34.00	10.00	21.00	37.00	19	16.00	21.00
24	岐阜県	95.00	15	38.00	10.00	47.00	24.00	28	14.00	10.00
25	滋賀県	49.00	25	18.00	10.00	21.00	28.00	23	12.00	16.00
26	京都府	83.00	19	58.00	15.00	10.00	38.00	16	28.00	10.00
27	大阪府	83.00	19	63.00	10.00	10.00	34.00	21	24.00	10.00
28	兵庫県	162.00	8	142.00	10.00	10.00	105.00	3	95.00	10.00
29	奈良県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
30	和歌山県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
31	鳥取県	36.00	31	16.00	10.00	10.00	26.00	26	16.00	10.00
32	島根県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
33	岡山県	38.00	30	16.00	10.00	12.00	23.00	29	13.00	10.00
34	広島県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
35	山口県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
36	香川県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
37	徳島県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
38	愛媛県	35.00	32	15.00	10.00	10.00	25.00	27	15.00	10.00
39	高知県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
40	福岡県	97.00	14	72.00	15.00	10.00	45.00	14	35.00	10.00
41	佐賀県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
42	長崎県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	0.00	46	0.00	0.00
43	熊本県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
44	大分県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	0.00	46	0.00	0.00
45	宮崎県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
46	鹿児島県	60.00	23	40.00	10.00	10.00	34.00	21	24.00	10.00
47	沖縄県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	10.00	39	10.00	0.00

三重県競技力向上対策本部第 18 回競技力向上対策委員会の概要

令和 4 年 1 1 月 1 5 日 (火)
三重県総合文化センター中会議室

1 安定期における競技力向上に係る取組等について

(1) 今後の目標設定について

- ・ 今後、厳しい東海ブロックをどうクリアしてくのかが知りたい。
- 今年の反省ふまえ事務局と競技団体に協議検討する。
東海ブロック通過に向け、対象となる県に対し、作戦をたて、国体のレギュレーション対策も十分におこないながら、戦力を整えていきたい。
- ・ 陸上は、東海ブロック予選はないが、課題クリアするために、競技団体と事務局がしっかり協議する場と人が必要。それがないと強化が難しいのではないか。今まで通りやっても東海ブロック予選を通過できない。普及していない競技を強化して効率よくポイントを取る等、取り組み方の変革が必要。真剣に方策を(事務局として)考えるべきではないか。
- 事務局としてももしっかり現場に出向いていくようにする。競技力の様々な視点を再度見直し、いつ何をどうすべきかを見極めて支援していきたい。
- ・ 鹿児島国体に向けての予算の方向性見、通しを教えて欲しい。
- 栃木国体での成果は、これまでの取組および三重国体にむけてのノウハウを活かした成果であると捉えており、引き続き予算確保に向けて現在取り組んでいる。
- ・ 国体開催県のその後について、点数減の県が多いが、三重県としてはどう考えているのか教えてほしい。
- 2026年までは10位台前半を目標としている。
- ・ 事務局としては、1300点を目標としているが、鹿児島国体ではどのくらい見込めると考えているか。
- 今年に匹敵する戦力を備えていると見込んでいる。
- ・ 1325.5点以上の点を獲得する力が(三重に)あると考えるのであれば来年の目標を1325点としてはどうか。
- 鹿児島国体、その後にむけての目標は「点数1325.5点以上を獲得し、10位台前半を目標とする。」こととし、次回の本部会議に提案する。(承認)

(2) 少年種別の強化・ジュニア世代の育成について

- ・ 中体連の部活動の社会体育化に伴って、中体連の優秀な指導者が活動場所を失うことが、三重県のスポーツにとって損失である。中体連の指導者が、身分保障をされたいうえで、社会体育で活躍できる環境を作っていただきたい。優秀な先生(指導者)の指導の場をなくするのはどうか。先生が、地域スポーツの場で活躍できる仕組み体制づくりを考えてもらえないか。
- 部活動の地域移行については6月にスポーツ庁が提言し、今後部活動ガイドラインが改定される予定。少子化の中でスポーツの場を保証することが必要と考えている。

兼職兼業については、生徒たちのスポーツの機会を奪わないように確保することが重要である。地域の実情の中、教員の希望を聞きながら地域の移行後も教員も参加できるようスポーツ庁、市町村で検討している。

- ・ ボート競技では、成年選手（県外の）が国体後、夏以降に少年の選手による指導をしてくれ、効果がでてきている。マイナースポーツでは、地域移行を活用して、良い選手が発掘し育成することができるチャンスととらえている。
- ・ 少年種別の強化について、継続した取組が必要。企業スポーツからも協力していただける形も継続して行ってほしい。
- ホンダヒート様においては、少年種別の指導も含めてありがたく、少年種別も刺激をもらっています。今後もお願いします。
- ・ 入試制度について、県外生徒受入については、強化指定クラブが複数ある学校ほど、思うように選手を獲得できない現状がある。枠が少なく入れない選手がいる。
- 5%枠の制度を変えるのは難しいが、全体の数字を前期にふる方向で検討されているところである。

(3) 成年種別の強化について

① 就職支援事業について

- ・ 実際に仕事をしたら、なかなか競技に打ち込めないという現状がある。
- ・ 選手によっては、職場からの理解や配慮がなされていないこともあった。
- ・ アスジョブに掲載する企業の見直しを含め、整備をすべきではないか。また、採用選手の現状把握や改善も必要ではないか。実際に競技と両立できるかを精査して企業斡旋していくべき。
- ・ 成年種別で三重国体に向けて取り組んできた選手の動向を教えてほしい。
- 三重国体をピークに引退する人もいた。来年については引退する人もいるが、概ね継続する。
- ・ 成年の得点は2年後に落ちる傾向にあるが、どうすれば成年のトップ選手が残ってくれるのか。得点を取れる選手が残れる環境整備とシンボリックチームの確立が必要。シンボルチームや企業があれば、三重に残ってくれるのでは。
- 三重国体に向けて創設したチームが8チームあるので大事にしたい。三重を代表するチームとして、さらに活躍してもらおう。三重を希望してもらえようにする。団体チームの選手補強にもあてていきたいと考えている。

② 指導員の制度について

- ・ できるだけ（人数も含め）現状維持する必要がある。特にジュニアに対しては、目の前にトップの選手がいる効果は大きく、アスリートとしてのマナーを学べるとともに、競技への向上心も高められる。
- 指導員は、重要な役割。少年種別への影響も大きく、意識向上、競技力向上につながる。就職支援事業については、県スポーツ協会と連携して続けていきたい。
- 競技生活を終えたら、地域で指導者になっていただくことも期待している。

- ・ トップ選手などの存在や指導は、ジュニアの育成や普及に影響大。チームの運営・環境整備には、人材が必要であるので、スポーツ指導員の事業は大切。

(4) 指導者について

- ・ 医・科学分野については、三重県には、科学がない。分析の場面で動作分析ができていないなど、遅れていると思っている。科学・栄養の活用、指導をしっかりと進めるべき。今後他県から遅れをとるのではないか。陸上は、バイオメカニクスを活用した強化をしている。
- 三重大学教授らが、30年くらいかけてスポーツについて地道にいろいろとやっている。複数年競技団体に関わって取り組んできているものもあり、三重国体に向けてスポーツドクター、薬剤師、栄養士、心理学等の分野の担当も現場に近いところでやってきた。三重大とも連携してやってきている。物足りる予算ではないが、「更に」というのであれば競技団体からもアプローチしてきてほしい。
- チームみえコーチアカデミーセンター事業では、指導者を受講生として招いている。これまでは、体づくりのトレーナーが多かったが、メンタル、フィジカル、栄養などのサポートの必要性に受講生が気づき、指導の現場に入れないといけないという意識で取り組んでくれている。それらを活用して選手をトータル的にサポートできたことは成果である。

2 パラアスリートの強化について

- ・ 水泳は昨年代替大会にパラ選手も出場してもらい、良い雰囲気の中で行えた。一緒にやっていける種目なので、このような取組は大切と考えている。
- ・ パラアスリートを含めた強化は大切であり、一緒にできる部分も多くある。できる、できないにとらわれず、一緒に考えて強化連携していくことが三重にとって大事。県の事業としても必要だと思う。
- ・ 支援の制度がないのが現状。会社で支援されない。金銭面は苦しい。陸上はブレードが高価、企業からも資金もらえない。さらに、パラアスリートは一人で活動できないことが多く、介助する人の資金等も必要。ブラインド、デフもできない。どうしていくのか、何が必要かをしっかり検討する必要がある。パラアスリートの環境整備、配慮について、会社にも働きかけていくべき。陸上競技としてもサポートしていきたいと考えている。県としても働きかけをお願いしたい。
- 今年度から事業を開始している。皆さんの意見を参考に、模索しながら進めていく。

3 情報共有

- ・ 結果が残せなかった競技団体は今後どのようにすれば良いか、何が課題で何が必要かを事務局と連携して、3年スパンで課題解決に向けてすすめるとよい。

- ・ ジュニア・少年の強化費は、単に合宿などに利用するのではなく、医・科学サポートに活用するなどして、普段、活用していない医・科学サポートの活用を推進するなどしてはどうか。基盤的強化費は、合宿など、戦略的強化費は、医・科学サポートに活用するなどしてはどうか。また、東海ブロック大会や国体期間中の医・科学サポート活動を現地で行ってはどうか。ゲーム分析やメンタル、コンディションサポートなど。
- ・ 国体の成績が良いと三重県民にとって、どういう意義があるのかを掘り下げて数値化できれば良い。県民の運動参加が増加、意識が高まったなど。知事のようにスポーツから遠い人たちをいかに巻き込むかは、この辺りの分析によるエビデンスが必要。コーチアカデミーや医・科学サポート活動の充実のためには予算をしっかりと確保する必要があるので、継続した予算措置をお願いしたい。
- ・ 三重国体目指してきた10年は、無駄ではない。来年からの5年はフェーズを変える必要があると考えている。これまでの成果はあった。これからをどうするか考えるのが事務局・競技団体。40競技すべてに「勝て！」はあり得ない。どうやって強化するかを考えるべき。県外から獲得するのか、5年10年かけて育成するのか。
- ・ ブロックの突破についてどう取り組むかについて、「体操」競技少年の部での入賞は、小学生のころから育成してきた成果。良い選手をつれてきて育てる、競技団体のプラン・実行力が大切。企業は、チームを表に出そうと考えている。県はもっと競技者に配慮し、選手をどう育て、どうアピールしていくか、スポーツ、競技をどう知ってもらうか、どう発信するかをしっかりと考える必要がある。スポーツ指導員の活用についても大胆な方策をたて実行する必要があるのでは。大きな改革を。予算減の見通しある中、どう活用するかしっかりと考えていってほしい。パラとのバランスも検討しておくことも大切。競技スポーツとは、「みんなを笑顔にできるのは、勝つことではと思ったりもする」この10年を、2年で無駄にしないために、今後も委員の皆さんと心一つに取り組んでいきたい。

協議事項

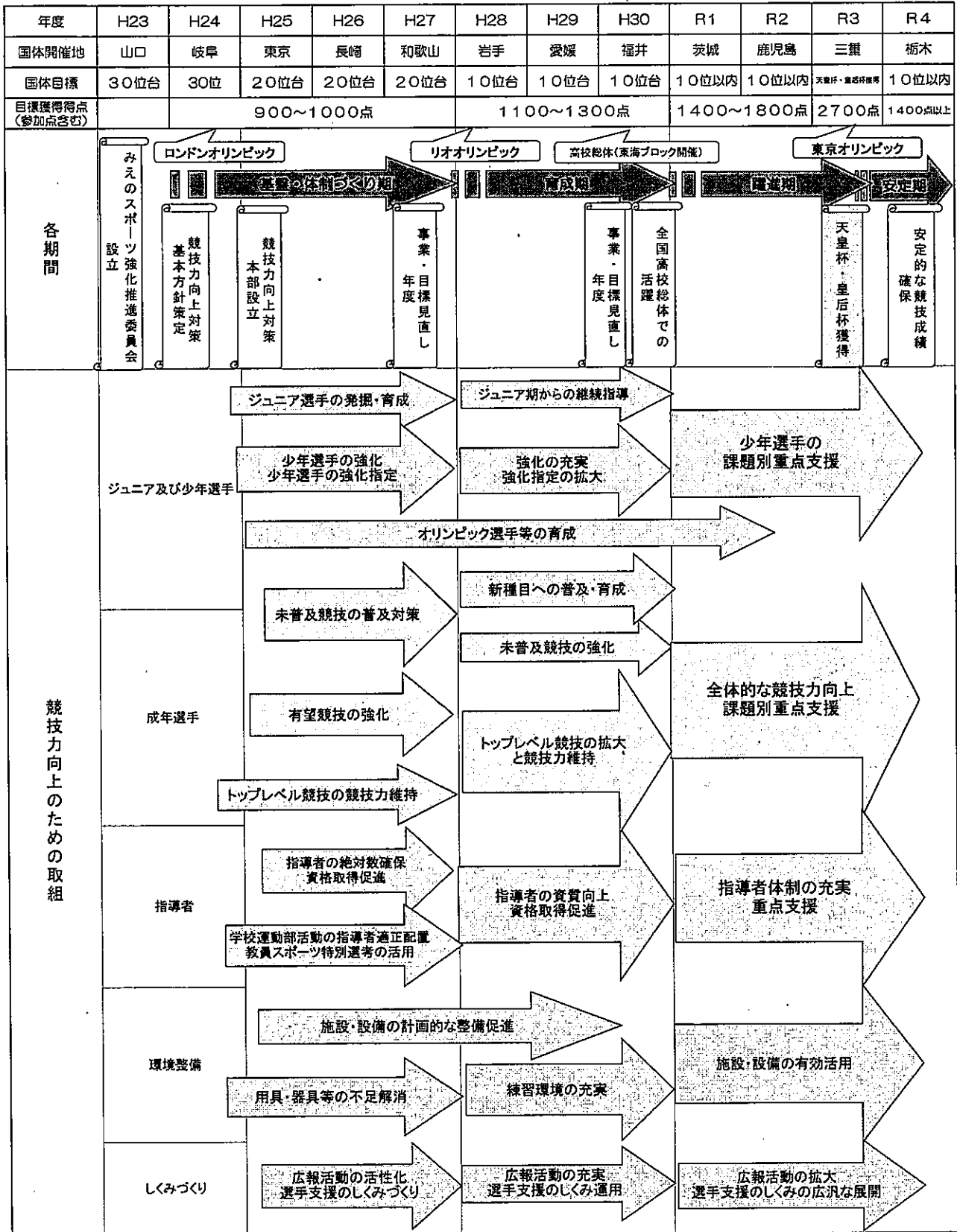
令和5年度の競技力向上に係る取組等について（案）

審議事項

令和5年度競技力向上対策事業について（案）

參考資料

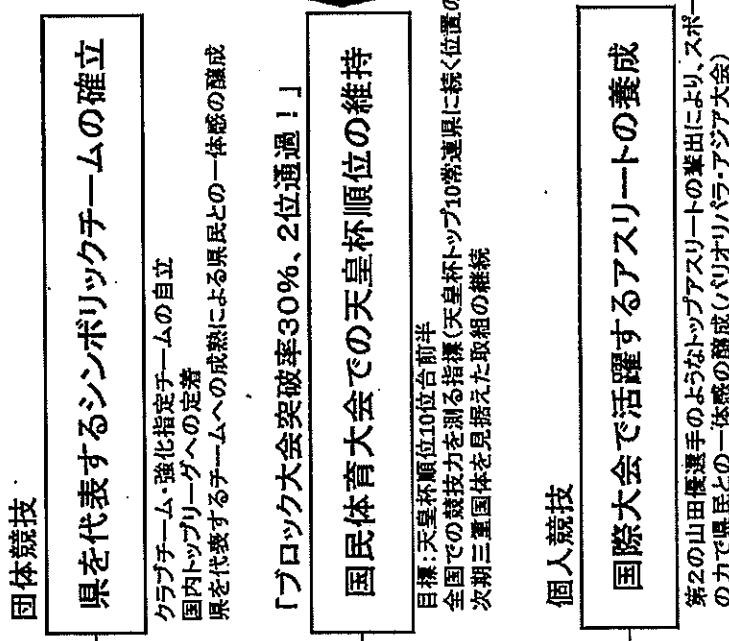
三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画



三重県競技力向上対策本部の継続と今後の競技力向上に係る取組方針

競技力向上対策本部の存続
 (目標設定、課題分析、取組評価・指導・助言)
 ~Go Forward チームみえ!~
 「これまでに積み重ねたノウハウを引き継ぎ目標に向かって前進する」

三重とわか国体後の取組目標



※次期国体開催に向けた競技力の維持向上

みえ元気プラン

(抜粋)

令和4(2022)年10月

三 重 県

施策 16-2 競技スポーツの推進

施策の目標

(めざす姿)

三重とこわか国体に向け高めてきた競技力の維持・向上により、多くの三重県ゆかりの選手が、国民体育大会などの全国大会や、オリンピックやパラリンピックなどの国際大会で活躍するとともに、県を代表するシンボリックチームが国内トップリーグで活躍しています。

三重県ゆかりの選手等の活躍によって、県民の皆さんに夢や感動が届き、県民の郷土への愛着や誇りが高まることにより、スポーツを通じた地域の絆づくりが進んでいます。

(課題の概要)

三重とこわか国体に向けて培った競技力を維持し、三重県ゆかりの選手の活躍を支援することで、県民の皆さんのスポーツへの関心を高めるとともに、いつでも安全、快適に利用できる施設環境を整備し、スポーツが持つ力により夢や感動が得られる機会を提供する必要があります。

現状と課題

- 三重とこわか国体に向けた競技力向上の取組は、国民体育大会をはじめとする全国大会や東京 2020 オリンピックなどの国際大会での三重県選手の活躍となり、県民の皆さんに多くの感動を届けることができました。
- 東京 2020 パラリンピックの開催や三重とこわか大会に向けた取組により、パラアスリートの活躍への関心が高まっています。
- 目標を持ってスポーツに取り組むことは、自己実現につながるものであり、努力を重ねて勝つ喜びを得ることや、勝敗にかかわらず相手を称える気持ちを養うことは、心身の健やかな成長にも寄与するものです。また、選手が活躍する姿は、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。こうしたスポーツの価値に着目し、三重とこわか国体に向けた競技力向上の取組を一過性のものでせず、継続・発展させていくことで、スポーツに取り組む皆さん、とりわけ、次代を担う三重の子どもたちの夢を育むよう、企業や関係団体等と連携し支援していく必要があります。
- 県営スポーツ施設では、全国のトップアスリートが競い合う競技大会から、多くの世代の県民の皆さんが参加するスポーツイベントまで、数多くのスポーツ大会等が開催されています。
- 引き続き、企業や関係団体等との連携によりいつでも安全、快適に利用できる施設環境を整備し、ハイレベルなプレーを観戦したり、日常的にスポーツを楽しむ機会を提供していくことで、県民の皆さんがより一層スポーツに親しみ、スポーツを通じた心身の健康維持・増進につなげていく必要があります。

取組方向

■ **基本事業1： 競技力の向上**

本県の安定的な競技力の確保を図り、今後も多くの三重県選手が国民体育大会をはじめとする全国大会や国際大会で活躍することで、多くの県民の皆さんの夢や希望、勇気となるよう、選手やチーム、競技団体が行う強化活動への支援や、企業や関係団体等と連携したトップアスリートの県内定着等に取り組みます。また、ジュニア・少年選手の発掘・育成や、幅広い世代での指導者の養成による一貫指導体制の構築を図ります。

また、本県における国民体育大会の開催に向けて機運醸成に努めるとともに、日本スポーツ協会の3巡目のあり方検討をふまえつつ、市町・競技団体をはじめとする県内関係者や国等との調整を図ります。

■ **基本事業2： パラアスリートの強化**

一定の競技レベルを有するパラアスリートの強化活動を支援し、パラリンピック等の国際大会や全国大会で活躍できるよう取り組みます。

■ **基本事業3： 安全、快適なスポーツ施設の提供**

さまざまなスポーツ大会等が数多く開催できるよう、施設機能の維持・向上や老朽化施設の改修等を計画的に行います。また、県民の皆さんが施設をより快適に利用できるよう、指定管理者制度を通じて魅力的な事業やサービスの提供に取り組みます。

KPI(重要業績評価指標)			
項目	現状値	令和8年度の目標値	項目の説明
国民体育大会の男女総合成績	— (中止)	10 位台前半	国民体育大会における正式競技の参加点(ブロック大会を含む)と冬季大会および本大会の競技得点の合計による都道府県ごとの男女総合順位
全国大会の入賞数	70 件	165 件	国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会における、団体・個人の入賞数
パラアスリートの全国大会の入賞数	35 件	41 件	ジャパンパラ競技大会、日本選手権における、団体・個人の入賞数
県営スポーツ施設年間利用者数	555,035 人	1,020,000 人	県営スポーツ施設(三重交通 G スポーツの杜鈴鹿、三重交通 G スポーツの杜伊勢、ドリームオーシャンスタジアム、県営ライフル射撃場)の年間利用者数

抜粋

第3次三重県スポーツ推進計画（最終案）

令和5（2023）年度～令和8（2026）年度

スポーツを通じて「人」「地域」を結びみえ
～スポーツを「楽しむ」三重の環～

令和5（2023）年3月

三重県

【推進施策2】

スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～

競技スポーツは、人間の可能性の極限を追求し挑戦することで、自己実現や一人ひとりの豊かな人生の形成に寄与します。

目標を持ってスポーツに取り組む（「する」）ことは、自立心や精神の涵養につながり、努力を重ねて勝つ「喜び」やスポーツの「楽しさ」を得ることができます。また、勝敗にかかわらず相手を称える気持ちを養うことは、心身の健やかな成長にも寄与するものです。さらに、「みる」「支える」人びとに感動を与え、スポーツを「楽しむ」といった側面があります。

本県では、平成25（2013）年に三重県競技力向上対策本部を設置し、令和3（2021）年に開催予定であった三重とこわか国体（第76回国民体育大会）をはじめ、国内外の数々の大会で活躍できる三重県選手・チームの育成・強化に取り組んできました。

令和3（2021）年夏に開催された東京2020オリンピック競技大会には過去最多19名の三重県ゆかりの選手が出場し、金メダリストを輩出しました。また、令和4（2022）年のいちご一会とちぎ国体（第77回国民体育大会）では男女総合成績12位となり、昭和50（1975）年開催の三重国体の優勝、さらにその翌年の9位に次ぐ3番目の好成績を収めました。




『推進施策2』では、スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

- ・選手の将来を見据えた長期的な視点から、次世代を担うジュニアアスリートの発掘・育成や優れた指導者の養成・資質向上に取り組めます。
- ・三重とこわか国体に向けて培った競技力向上のノウハウを生かし、三重県ゆかりのトップアスリート、パラアスリート、チームの強化活動を支援します。

<取組内容>

- (1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成
- (2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上
- (3) 三重県を代表するチームの強化支援
- (4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援
- (5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【SDGsへの貢献】

	目標	スポーツの貢献
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	<p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>小中学校・高等学校・高等教育機関において、公平で質の高い体育・スポーツ教育を受けることは、一生涯の健全なライフスタイルの確立につながります</p>
 <p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p>	<p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	<p>女性のスポーツ参画に取り組むことは、ジェンダー平等の実現に寄与します</p>
 <p>10 人や国の不平等を なくそう</p>	<p>国内および国家間の不平等を是正する</p>	<p>スポーツは世界共通の文化であり、国内外の地域間格差など不平等の解消に役立ちます</p>

(1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成

【現状・課題】

- ・将来を担うジュニア選手（小中学生）については、競技人口の少ない競技の選手の発掘・育成、ジュニアクラブ・高等学校運動部の強化指定による拠点化、選手の将来を見据えた一貫指導体制の構築など、長期的な視点での支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・競技人口の少ない競技については、将来、国民体育大会やオリンピック等で活躍が期待される優れた資質を有するジュニア選手の発掘・育成を行います。
- ・ジュニアクラブ・高等学校運動部を指定し、国民体育大会等で少年種別の中心となる選手の育成・強化を支援します。
- ・全国大会等で活躍が期待されるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定し、強化活動を支援します。
- ・選手の将来を見据えた長期的な観点から指導者を育成し、少年期から成年期までの一貫した指導体制を構築します。

【具体的な取組内容】

- ・小中学生を対象とするスポーツ体験会などを通じて、優れた資質を有し、国民体育大会やオリンピック等で中心となる次世代の選手を発掘します。
- ・国民体育大会等で活躍が期待されるジュニア選手やジュニアクラブ等を指定し、強化活動を支援します。
- ・国民体育大会等で活躍するトップアスリートの育成をめざし、育成・強化の中心となる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援します。
- ・少年期から成年期までの幅広い年齢層に応じて適切な指導ができる優れた指導者を養成し、一貫した指導体制を構築します。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	70件	165件	国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・ジュニア・少年選手から成年選手まで幅広い年齢層における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・幅広い年齢層において安定した競技力を確保する観点から、165件と設定しました。

(2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上

【現状・課題】

- ・三重とこわか国体ののちも安定した競技力を確保するため、ジュニア選手から成年選手まで、幅広い年齢層に応じた指導ができる指導者の養成を図るとともに、一貫的な指導体制を構築します。さらに、指導者を育成する指導者「コーチデベロッパー」の養成に取り組んでいます。
- ・将来を見据え、長期的な視点で選手の競技力を向上させるには、幅広い年齢層に応じた適切な指導ができる優れた指導者の養成・資質向上・拡充を図る必要があります。
- ・少年期から成年期までの一貫した指導体制づくりが不可欠です。

【取組の方向性】

- ・県内指導者の資質向上を図るための研修を行うことで、指導者の拡充、一貫的な指導体制の構築を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・日本一をめざす指導力の獲得と資質向上を図るため、チームみえ・コーチアカデミーセンター事業において国内トップクラスの講師を招へいし、コーチング論や医科学サポートなど科学的根拠に基づいた指導法や、指導者のスポーツ・インテグリティの確保などに関する研修を行います。
- ・競技力向上の中心的役割を担い、今後の本県の指導者を育成する者としてコーチデベロッパーを養成し、優れた指導者の拡充を図ります。
- ・指導者が各カテゴリーを超えて交流することでチームみえの一体感を醸成し、一貫的な指導体制を構築します。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
新たな指導者の拡充	39人	80人	「チームみえ・コーチアカデミーセンター事業」を受講し、新たに指導者となった人数（累計）

<選定理由>

- ・チームみえ・コーチアカデミーセンター事業の取組による指導者養成の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・安定した競技力を確保する観点から、今後の受講者（養成者）数を見込み、設定しました。

(3) 三重県を代表するチームの強化支援

【現状・課題】

- ・成年選手の重点的な競技力向上を図るため、本県を代表するチームとして全国での活躍が期待できるチームを指定し、支援しています。
- ・競技団体やクラブチームによっては、運営基盤が弱く、組織の持続的な運営に課題を抱えている場合があります。組織力や経営力を高め、体制強化を図るため、運営に課題を抱える競技団体やクラブチームを支援しています。

【取組の方向性】

- ・全国での活躍が期待できるチームを指定し強化活動を支援することで、本県選手の競技力向上を図ります。
- ・持続的な運営が可能となるよう、専門性を有するアドバイザーを派遣することで、競技団体やクラブチームの体制強化を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業により、国民体育大会等での活躍が期待される本県を代表するチームを指定し、強化活動に要する経費を支援することで、重点的に成年選手の競技力向上を図ります。
- ・成年種別の中心として強化指定したチームのうち、運営や経営に関する課題を抱える競技団体やクラブチームに対し、専門的な知識やノウハウを持ったアドバイザーを派遣し、体制の強化を図ります。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	- (中止)	105件	国民体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・成年選手における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・成年選手において安定した競技力を確保する観点から、105件と設定しました。

(4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援

【現状・課題】

- ・選手やチーム、競技団体が行う強化活動への支援や、企業関係団体等と連携したトップアスリート・指導者の県内定着などに取り組んでいます。
- ・これまで積み重ねてきた競技力向上のノウハウを生かした選手・チームへの支援が必要です。
- ・三重とこわか国体が中止となったものの、引き続き、国民体育大会での男女総合成績10位台前半を維持するため、選手・チームの安定的な競技力の確保が必要です。

【取組の方向性】

- ・選手・チームの課題を把握し、実力を引き上げられるよう、競技団体や本県を代表するチーム等の強化活動を支援します。
- ・選手が大会で実力を発揮できるよう、医科学の専門スタッフを競技団体等に配置するなどの支援を行います。
- ・女性アスリート特有の諸課題に関する研修を実施し、知識習得・意識向上を図ります。
- ・企業関係団体等と連携した就職支援により、トップアスリート・指導者の県内定着を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・国民体育大会で活躍が期待される代表選手（チームみえ）やオリンピック等の国際大会で活躍が期待される選手が行う強化活動を支援するとともに、選手が実力どおりのパフォーマンスを発揮できるよう医科学の専門スタッフを派遣するなどの支援を行います。
- ・スポーツ・インテグリティの確保に向け、関係団体と連携し、ドーピングの禁止やハラスメントの防止などの注意喚起を図ります。
- ・女性アスリートが継続して競技に取り組むことができるよう、研修を通じて女性特有の諸課題に関する知識の習得や意識向上を図ります。
- ・安定した競技力を維持できるよう、全国大会や国際大会で活躍するトップアスリートや指導者に対し、県内企業等と連携して就職支援を行い、県内への定着を図ります。
- ・本県における国民体育大会の開催に向けて機運醸成に努めるとともに、日本スポーツ協会の3巡目のあり方検討をふまえつつ、市町・競技団体をはじめとする県内関係者や国等との調整を図ります。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
国民体育大会の 男女総合成績	- (中止)	10位台前半	国民体育大会における正式競技の参加点（ブロック大会を含む）と冬季大会及び本大会の競技得点の合計による都道府県ごとの男女総合順位

<選定理由>

- ・三重とこわか国体ののちも安定的な競技力を確保することをめざしており、各県の競技力を示す指標であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・三重とこわか国体ののちも安定した競技力を確保する観点から、（大都市圏などの常連県に次ぐ位置として）10位台前半と設定しました。

(5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【現状・課題】

- ・競技力向上を図るため、パラリンピック等の国際大会や全国大会で活躍が期待される一定の競技力を有する選手を指定し、強化活動を支援しています。
- ・競技によっては、パラスポーツを専門とするコーチや、同じレベルの練習パートナーが県内に不足しており、活動拠点を県外や海外に求めざるを得ない場合があります。
- ・競技用具の機能や調整具合が勝敗を分けることがあり、個々の競技の特性をふまえたきめ細かな支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・一定の競技力を有する選手に対し、強化活動の支援を行います。
- ・選手に応じたきめ細かな支援を行うため、選手一人ひとりの状況把握に努め、求められる支援のためのノウハウや経験を蓄積します。

【具体的な取組内容】

- ・パラリンピック等の国際大会や全国大会での活躍をめざして強化活動に取り組む本県選手のうち、国際大会や全国大会で入賞するなど一定の実績（競技力）を有し、パラリンピック等での活躍が期待される選手を指定し、遠征費や大会参加料、競技用具の購入、医科学スタッフの派遣など、強化活動を支援します。
- ・強化支援による成果や選手それぞれが求める支援について、選手に聴取りを行い、さらなる支援の充実を図ります。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
パラアスリートの全国大会の入賞数	35件	41件	ジャパンパラ競技大会、日本選手権における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・パラアスリートにおける本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・東京2020パラリンピック競技大会及び三重とこわか大会に向け高まった、県内選手の競技力を維持・向上させるため、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度まで(令和2(2020)年度を除く)の入賞数実績の平均値等を参考に、令和8(2026)年度の目標値を41件と設定しました。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	山川 晴久

【副委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会理事長	村木 輝行

【委員：21名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県教育委員会事務局次長	中川 実
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事兼観光イベント係長	吉居 寛典
	東員町教育委員会事務局社会教育課長	田中 豊
産業・経済関係	株式会社エクセディ上級執行役員グローバル人材開発本部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	滝 文隆
	本田技研工業株式会社生産本部鈴鹿製作所生産業務部総務課長	松本 周一
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会強化・普及委員会委員長	松澤 二一
	三重県中学校体育連盟理事長	八尾 晃二
	三重県高等学校体育連盟理事長	池田 庸祐
	鈴鹿市立平田野中学校バスケット部顧問	北林奈津子
	県立宇治山田商業高等学校陸上競技部顧問	小池 弘文
	県立朝明高等学校レスリング部顧問	橋爪 幸彦
	三重県サッカー協会FAコーチ(株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ)	樋口 士郎
	三重高等学校ソフトテニス部顧問	神崎 公宏
	皇學館大学柔道部監督	佐藤 武尊
	三重バイオレットアイリスGM	梶原 晃
	三重県水泳連盟強化責任者(競泳)	八田 知宏
	三重県ボート協会強化責任者	丸山 亮太
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院附属クリニック院長	加藤 公
	日本体育大学体育学部教授	杉田 正明

三重県競技力向上対策委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重県競技力向上対策本部規約第11条の規定に基づき、三重県競技力向上対策委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に必要な事項を定める。

(業務)

第2条 委員会は、本部会議から付託および委任された専門的な事項について、調査・審議する。

(役員)

第3条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

2 役員は、本部長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本部長が委嘱した委員をもって構成する。

(1) 県関係者

(2) 市町関係者

(3) 産業・経済関係者

(4) 学校・スポーツ団体関係者

(5) 学識経験者

(6) その他本部長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員及び役員の任期は、本会の目的が達成された日までとする。ただし、委員が就任時の所属機関及び団体等の役職を離れた場合、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開会できない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外に専門的知識を有する者の出席を求め、必要に応じて専門委員会を開催し、意見を聞くことができる。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が本部長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成25年5月29日から施行する。

